



散布日	散布時期	散布薬剤 (水 100当)	濃度	散布量 1 a 当り	対象病害虫	注意事項
/	育苗中	① 展着剤 ハイテンパワー(1mℓ) トップジンM水和剤 (6.6g)	10,000 倍 1,500 倍	100	立枯病	① アザミウマ類防除はオンコル粒剤を箱内散布 3g/1箱
/	定植後	② 展着剤 ハイテンパワー (1 mℓ) オーソサイド水和剤 (16.6g)	10,000 倍 600 倍	200	立枯病	① オーソサイド水和剤は土壌表面に散布し、立ち枯れ病発生を予防する。
/	定植後 株本散布	オルトラン粒剤 粘着シート (青) 設置		600g	アブラムシ類 アザミウマ類	① ネキリムシ類 は、朝夕の涼しい時間帯が捕殺しやすいため地際部食害がみられたら周辺株元を掘って捕殺も行う。発生多い場合には ガードベイトA (300g/1a) 株元に散布しても良い。
/	5月下旬 (5/26) 満月	③ 展着剤 ハイテンパワー (1mℓ) アクタラ顆粒水溶剤 (10g) トップジンM水和剤 (6.6g)	10,000 倍 1,000 倍 1,500 倍	200	(立枯病)、(灰色かび病)、アザミウマ類、ハモグリバエ類、(アブラムシ類)	① トップジンM水和剤は、 地表面 も散布し、立枯病の発生を予防する。 ② 満月 は産卵する個体が多くなるため、その3日前後で防除できると防除効率が良い。
/	6月中旬 (6/10) 新月	④ 展着剤 ハイテンパワー(1mℓ) スミチオン乳剤 (10mℓ) ダコニール 1000 (10ml)	10,000 倍 1,000 倍 1,000 倍	300	灰色かび病、褐斑病 (ヨトウムシ類、アブラムシ類)、アオムシ、アザミウマ類、ハマキムシ類	① 梅雨時期は、立枯病の発生が多くなる。薬剤での処理は難しいため、排水不良園は通路など耕運し、水が下がるように対策する。
/	6月下旬 (6/25) 満月	⑤ 展着剤 ハイテンパワー (1mℓ) プレオフロアブル (10mℓ) トップジンM水和剤 (6.6g)	10,000 倍 1,000 倍 1,500 倍	300	立枯病、灰色かび病 オオタバコガ、ヨトウムシ類	① オオタバコガ が多発する時期になるため農薬が葉裏にまでかかるとように薬剤散布する。
/	7月上旬 (7/5) (着蕾時)	⑥ 展着剤 ブレイクスルー (1mℓ) アフェットフロアブル (5mℓ) アクセルフロアブル (10 mℓ) 粘着シート (青) 交換	10,000 倍 2,000 倍 1,000 培	300	灰色かび病 オオタバコガ、(ハスモンヨトウ)	① 着蕾期から薬剤の汚れに注意し、展着剤をブレイクスルーに切り替える。 ② アブラムシ類の発生がある場合には、アクタラ顆粒水溶剤 1,000 倍を加用する。高温時には注意が必要
/	7月中旬 (7/15) (下葉かき後)	⑦ 展着剤 ブレイクスルー (1mℓ) ヨーバルフロアブル (4mℓ) ダコニール 1000 (10mℓ)	10,000 倍 2,500 倍 1,000 倍	300	褐斑病 (茎腐れ) オオタバコガ、ハスモンヨトウムシ、(アザミウマ類)	① 荷作り後のムレ防止のために、下葉かき後に殺菌剤ダコニール 1,000 倍液を使用する。
/	7月下旬 (7/24) 満月 (収穫前)	⑧ 展着剤 ブレイクスルー (1mℓ) フルピカフロアブル (5mℓ) プレオフロアブル (10mℓ)	10,000 倍 2,000 倍 1,000 倍	300	灰色かび病 オオタバコガ、ハスモンヨトウ	① 収穫前には害虫の加害を防ぐために、蕾にしっかりと農薬がかかるとように散布する。 ② アザミウマ類の発生が多い場合にはコテツフロアブル 2,000 倍を散布する。
/	8月上旬 (8/2) (収穫中)	⑨ 展着剤 ブレイクスルー (1mℓ) ダコニール 1000 (10 mℓ) ディアナ SC (2mℓ)	10,000 倍 1,000 倍 5,000 倍	300	灰色かび病、うどんこ病 オオタバコガ、(ハマキムシ類)、ヨトウムシ類、アザミウマ類	① 収穫中の防除は病害虫の発生に合わせて散布を行う。

***農薬混溶例： 水 → 展着剤 → 液剤 → 乳剤 → 顆粒水溶剤 → 水溶剤 → フロアブル剤 → 水和剤**

◎液肥の混用について

- ・着蕾前 メリット青 800 倍 又は 尿素 1000 倍
- ・着蕾後 メリット赤 500 倍

定植が遅れた際には、メリット青 800 倍か、尿素 1000 倍を 5 日おきに 3 回程度散布すると活着がスムーズになる。
また、着蕾前の樹勢が弱い場合にも有効で、農薬との混用も可能。

たかが一本、されど一本！その一本で 0 にも 100 にもなります！！

当防除暦の複製・コピーを禁止します

農薬使用基準

	薬剤名	薬剤系統	適用病害虫名	希釈倍率	使用回数
殺菌剤	ユニフォーム粒剤	アズキシストロビン メタラキシルM	立枯病、(疫病)	18kg/10a	3回以内
	オーソサイド水和剤 80	キャプタン系	立枯病、茎腐病、苗立枯病	600倍	8回以内
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ チオファネートメチル	灰色かび病	1,000倍	5回以内
	トップジンM水和剤	チオファネート	菌核病、(立枯病)	1,500倍	5回以内
	ポリオキシ AL 水溶剤	ポリオキシ剤	うどんこ病・灰色かび病、ハダニ類	2,500倍	5回以内
	フルピカフロアブル	メパニピリム	灰色かび病	2,000倍	5回以内
	アフェットフロアブル	ピラゾール	灰色かび病	2,000倍	3回以内
	ストロビーフロアブル	ストロビルリン系	さび病	2,000倍	3回以内
	ダコニール 1000	TPN	(茎腐病) うどんこ病	1,000倍	6回以内
殺虫剤	ノーモルト乳剤	I GR系(キチン合成阻害)	ヨトウムシ類	2,000倍	2回以内
	オンコル粒剤 5	カーバメイト系	アザミウマ類	6kg/10a	3回以内
	Ⓔ モスピラン顆粒水溶剤	ネオニコチノイド系	アブラムシ類	4,000倍	5回以内
	アルバリン顆粒水溶剤		アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類	2,000倍 1,000倍	
	アクタラ顆粒水溶剤		ミカンキイロアザミウマ、ハモグリバエ類	1,000倍	6回以内
	アフーム乳剤		マクロライド系	ハモグリバエ類・オオタバコガ・ヨトウムシ類・ミカンキイロアザミウマ	1,000倍
	プレオフロアブル	ピリダリル	オオタバコガ・ヨトウムシ	1,000倍	4回以内
	Ⓔ コテツフロアブル	ピロール系 (呼吸阻害剤)	ヨトウムシ類・ミカンキイロアザミウマ・ハダニ類	2,000倍	2回以内
	フェニックス顆粒水和剤	ジアミド系	オオタバコガ、ハスモンヨトウ	2,000倍	4回以内
	ヨーバルフロアブル		オオタバコガ、ハスモンヨトウ	2,500倍	3回以内
	オルトラン粒剤	有機リン系	アザミウマ類・アブラムシ類・ヨトウムシ類	3~ 6kg/10a	5回以内
	オルトラン水和剤		アザミウマ類・アブラムシ類・ヨトウムシ類・オンシツコナジラミ	1,000倍	
	スミチオン乳剤		バッタ・アザミウマ類・ハマキムシ類・アオムシ・ウリハムシ	1,000倍	6回以内
	コルト顆粒水和剤	ピルフルキナゾン	コナジラミ類・アブラムシ類	4,000倍	4回以内
	ディアナSC	スピノシン系	オオタバコガ・アザミウマ類・ハモグリバエ類・(コナジラミ類)	2,500倍~ 5,000倍	2回以内
	アディオオン乳剤	ピレスロイド系	アブラムシ類・カメムシ類 ハマキムシ類・ヨトウムシ類	2,000倍	6回以内
ガードベイトA	ネキリムシ類		3kg/10a		

当防除暦の複製・コピーを禁止します